



Upside Japan
THE TECH INSIDER www.upsidejapan.com

！ホーム！UPSIDEについて！UpsideToday米国版！

！コラム！ビジネスモデル！注目の企業！キーパーソン！業界動向！アジア最新ニュース！ITな暮らし！



注目記事

- ・MSNが音楽配信サービスに参入
- ・ネットのコンテンツで金は取れるのか？
- ・マイクロソフトがトランスメタと提携！
- ・iモードがアメリカにやってくる！
- ・ハイテク株よ、底の底まで落ちてくれ
- ・略語の山に埋もれたB2Bマーケット



デジタル用語辞典:

検索



Upside Japan / コラム

フーフーして飲め

中村伊知哉@LANTIC【第8回】

1999年5月10日

フー・アー・ユーでお茶をすすれ



5歳の次男が、「おとうさん、フー・アー・ユーってどーゆー意味」と聞くので、「湯は熱いからフーフーして飲め、という意味や」と教えてやった。とてもウケたのでうれしかった。これは私が幼いころ、吉本新喜劇で岡八郎さんが言ったセリフなのだ。私に刷り込まれた貴重な文化を一つ、彼に伝承することができた。よかった。

7歳の長男がたて笛を練習している。おとうさんはな、むかし、京大西部講堂というロックの殿堂でな、モヒカンの連中の前でな、ひとりでたて笛ふいて歌うたう、という恐ろしいステージやったことあるんだぞ。「何も怖くないよそんなの見ても」。おとうさんが怖かったの。

たて笛といえばハゼドンであり、それは水森亜土だが、オカリナといえば悪魔くんであり、悪魔くんをやっていたのはジャイアントロボの草間大作少年であり、彼がもっていた腕時計タイプのモバイルが欲しかったが、今はもう欲しくない。たて笛といえば、確か天才バカボンだったと思うが、ずいずいづいところばしを1曲ふき終わると、ドン、と下からタマが出る笛ピストルを使うギャングの話があったが、その笛は今でも欲しい、インターネットで売ってませんか。

父親としては、こういう文化を伝承することぐらいしか連中にしてやれることはない。すまん。彼らに期待することがないわけではない。私は将来、無職という肩書きでイタリアかインドに住みたいので、長男がイタリアの粘土職人になり、次男がインドの哲学者になって、老いた父を呼んでくれればいいなあと密かに願っている。

岡八郎:吉本新喜劇所属のベテランタレント。映画出演も多く、なかには「ポルノギャンブル喜劇 大穴中穴へその穴」というトホホな名前の作品もあり。

京大西部講堂:京都大学の本部校舎と道路を隔てたところに立っている、かなりボロっちな講堂。その一帯には、部室(BOX)や学食などが偏在している。学生主催のライブはもちろん、年越しプロレスまで開催してしまうという、かなりラディカルな場所として知られている。

ハゼドン:72年10月から半年間、フジテレビ系列で木曜の19時に放映されていたテレビアニメ。主人公ハゼドンの声を担当していたのは、大山のぶ代@ドラえもん。主題歌の「ハゼドン音頭」は、アニソンカラオケの定番曲として人気。

水森亜土:元祖・年齢不詳(実はもう還暦を超えている)。イラストレーターのイメージが強いが、デビューは日劇ミュージックホールのジャズステージだった。

ジャイアントロボ:原作者は鉄人28号でおなじみの横山光輝。'67年11月から実写版がテレビ放映され、ほぼ同時進行で週刊少年サンデーにマンガが連載されていた。'92年からはアニメ(OVA)版も発売されている。

腕時計タイプのモバイル:ロボの体内には主人公である大作くんの声が声紋登録されており、大作くんは腕時計に向かってロボへの命令を叫ぶ。ってことは、あの腕時計って単なる通信機じゃん。

DJはアーティスト兼編集者

ところが長男は、虫の研究者になるといい、次男は、みどりヨッシーになるといい。これはもう2年ほど前からずっとそう言っているのだから、確固とした信念のようだ。おまえらの憧れの職業ってのはそんな感じなのか？ 野球選手とかアニメ作家とかゲーム作家とかじゃないの？ みどりヨッシーってのはどこの大学に行けばなれるんだ？

キッズの憧れ度が高いのはDJだそうですね。クラブでターンテーブルを回している人。東西ヨーロッパ文化が激突する都市ベルリンで開かれる100万人のイベント“ラブバレード”でターンテーブル回すのが最大の榮譽ってことらしい。

無数にあるレコードの無数にあるフレーズや音源を選んで組み合わせるDJは、アーティスト兼編集者だ。情報の海であるインターネットの社会でも、こういうアーティスト兼編集者が出てくれば、一番えらくてパワーを持つ。私にとって有益で気持ちよくてカッコいい情報を選んで組み合わせる人。きっとリンク文化のスーパースターが登場する。

いまそれは、人というより、ポータルサイトという形で、アメリカ企業が取り組んでいて、その競争が熾烈を極めている。AOLがネットスケープと合体、ヤフーがジオシティーズと統合、ディズニーがインフォシークに乗り込み、アルタビスタのDECをコンパックが襲う。サイトが無数に増える一方、チャンネルが少数に集約されようとしている。

ラブパレード:元々はベルリンの壁崩壊を記念するイベントだったが、いまでは100万人以上を動員する世界最大のテクノ・レイブイベントとして知られるようになった。今年は7月初旬に開催される予定。ホテルはすでに満室らしいが、どうせみんな野宿するんだから一緒に。

本当の自分はネットワークの中にいる?

個人はサイトという情報が増えるほど、選べなくなって、自分の好きな1チャンネルに向かうのか。個人の囲い込みに成功するのは誰か。私はどこかの企業に囲い込まれてしまうのだろうか。

同時に、エージェントの技術も開発が進んでいる。私のいるメディアラボでも取り組んでいる。私の趣味や好みや行動パターンに合った情報を、インターネットの海を泳いで取ってきて、編集して、ささやいてくれるというソフトだ。

真っ暗な深海まで泳いでいって、また細い川を上って卵を産みに帰ってくるというのは、サケのように感心なヤツだから、ほめてつかわすが、そこでもっと大事なのは、そのサケは私のことをよく知ってるということだ。私が見たこと、聞いたこと、書いたこと、話したことをぜんぶ覚えていて、その履歴に即して情報を探してくるのだ。

自分が聞いたことや書いたことなんか、その瞬間から忘れてる私にしてみれば、私の記憶がすべて詰まっているコンピューターやネットワークの方が、私よりも私のことをよく知っているわけだ。が、これは私がネットワークの中で生きているという次元を超えて、どちらがホントの私かと言えば、ネットワークの中の私の方が私に違いない。

そのうち、エージェントが私に代わって発言したりするようになれば、私はホントに用済みで、晴れて無職としてインドだな。そうなったらインドティーをフーフーして飲んでこましたる。

中村伊知哉 プロフィール



マサチューセッツ工科大学 客員教授
'61年生、京都市出身。京都大学経済学部卒。

在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターで活躍。
'84年、郵政省入省。'93年からパリに駐在し、'95年に帰国後は郵政大臣官房総務課課長補佐を務める。'98年、郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就任。同年、マサチューセッツ工科大学 客員教授に就任。

著書に『インターネット,自由を我等に』(アスキー出版局)などがある。趣味は、ずばり“メディア”。

ホームページ: <http://www.media.mit.edu/~ichiya/jpn.htm>

(C)Hajime Anzai

▶中村伊知哉@LANTIC【連載リスト】 (<http://www.upsidejapan.com/upside/column...>)

(中村伊知哉)

！ASCII24！ASCII24 Business Center！日刊アスキー Linux！アスキーデジタル用語辞典！
！auto-ASCII24！Shes.net！ASCII Job Serve.！アスキートップ！

！[個人情報の取扱について](#)！[編集部へのコンタクト\(info@upsidejapan.com\)](#)！[広告掲載のご案内](#)！

Copyright (C)1993-2000 Upside Media Inc.
Copyright (C)2000 ASCII Corporation.
All rights reserved.